

# スーパーマーケット景気動向調査

2015年5月調査結果（4月実績）  
（5月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」  
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」  
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

### 経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3カ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3カ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

### 景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会  
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

## 5月調査（4月実績）結果概況

### 景気判断DIは5ヵ月連続の改善、見通し判断は調査開始以降はじめて50を上回る

4月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+8.3の55.4、見通し判断前月から+5.5の52.2となり、5ヵ月連続の上昇となった。見通し判断DIが好不調判断の分かれ目となる50を上回ったのはこれがはじめてとなる。

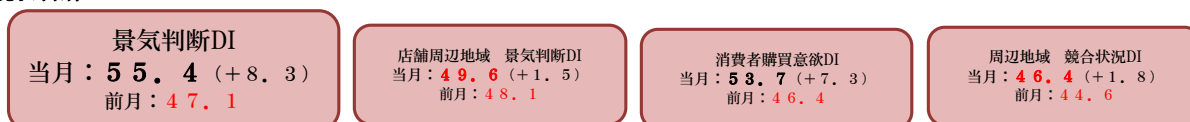
経営動向調査結果では、すべてのDIが大幅な改善をみせている。前年落ち込みからの反発により売上高DIが16.0(+31.8)、収益DIは9.7(+18.7)と大きく改善している。来客数DIの改善に加え、生鮮仕入原価DI 19.3、食品仕入原価DI 18.6が共に最高値を記録し、販売価格DIも14.3と最高値となったことを追い風に客単価DIが13.6と上昇したことが売上DIを二桁のプラスに押し上げている。

カテゴリ動向結果では、すべてのDIがプラスとなっている。特に落ち込みからの反発が大きい一般食品と非食品カテゴリで大きく上昇している、落ち込みの影響が軽微だった生鮮品カテゴリでも相場高を背景に、惣菜カテゴリでも来客数の回復を追い風に好調となっている。

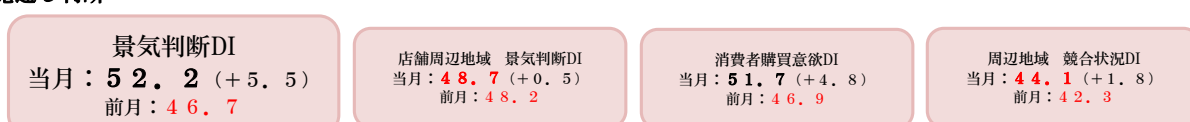
景況感調査でも、すべてのDIが改善を示しており、特に景気判断DIと消費者購買意欲DIでは、現状、見通し判断共に50を上回る水準まで上昇をみせた。前月、駆け込み需要の反動により売上は不振であったにも関わらず上昇を続けていた景況感は、今月さらなる上昇をみせた。相場高や商品の値上げが客単価を支えている側面はあるものの、景況感の回復は鮮明なものとなっている。また、はじめて見通し判断DIが50を上回ったことで、今後も景況感は堅調に推移することが予想される。

### 景況感調査

#### 現状判断

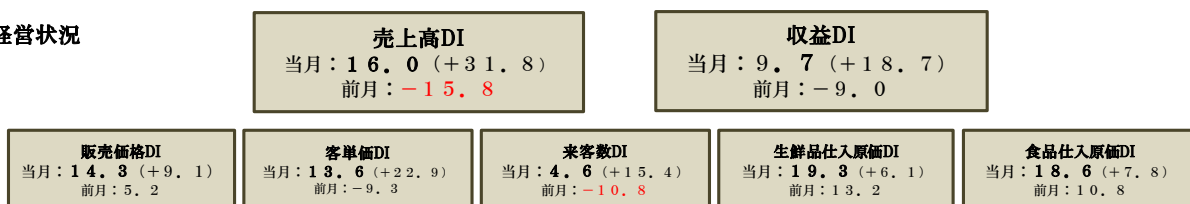


#### 見通し判断

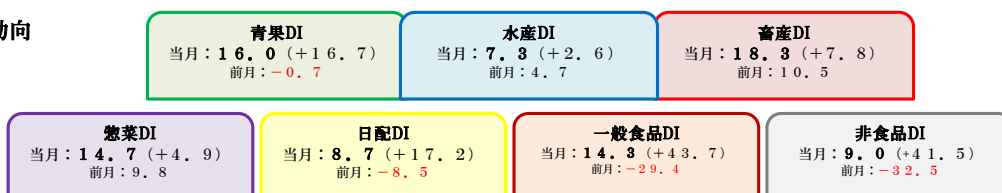


### 経営動向調査

#### 経営状況



#### カテゴリ動向

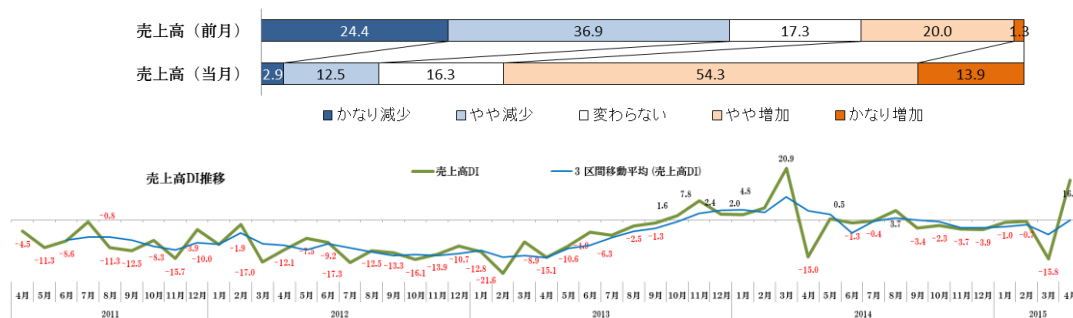


○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

# 5月調査（4月実績）結果詳細 I. 経営動向調査

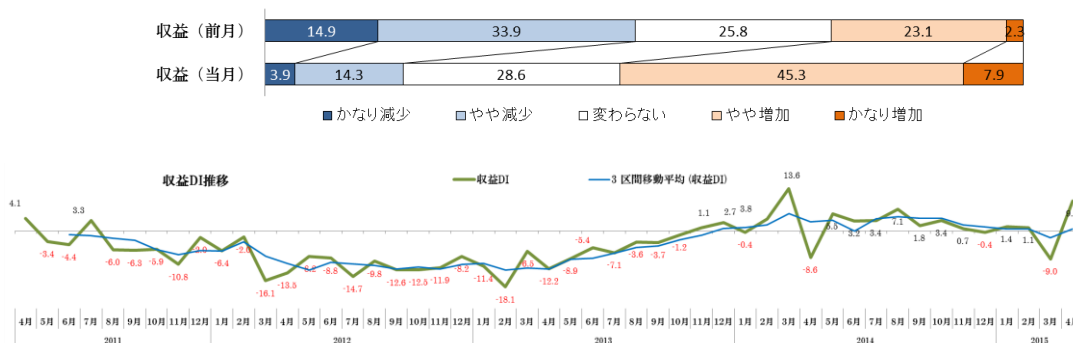
## 1. 売上高DI

前年の駆け込み反動による落ち込みとの対比により大きく上昇



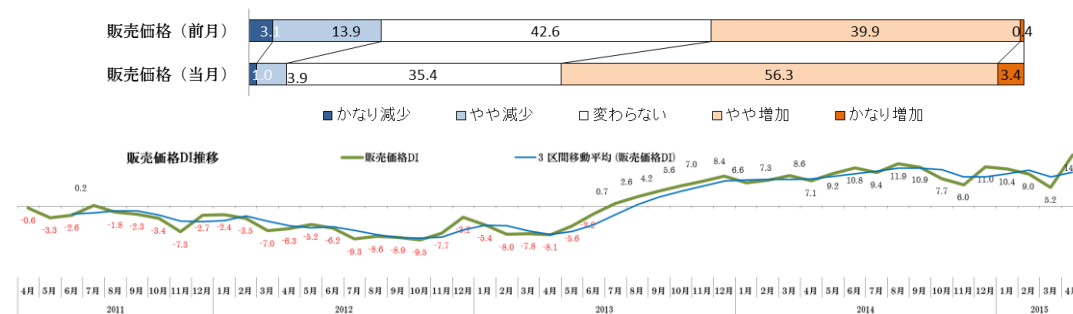
## 2. 収益DI

前年の駆け込み反動による落ち込みとの対比により大きく上昇



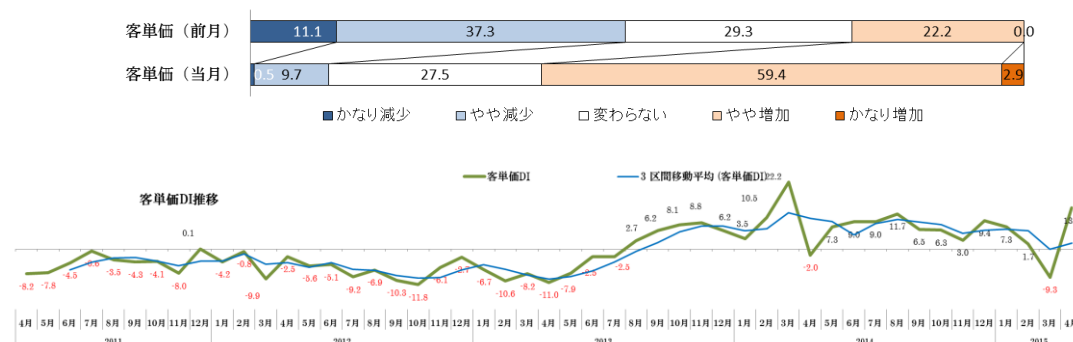
## 3. 販売価格DI

仕入れ価格の上昇により過去最高値を記録し、21ヵ月連続のプラス



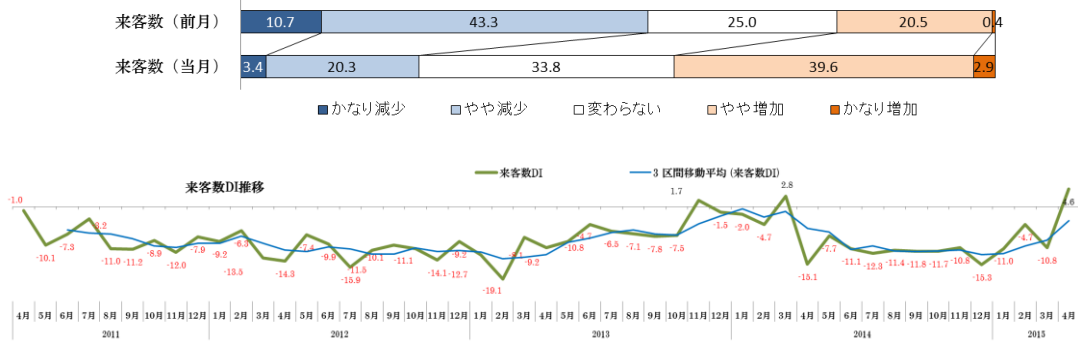
## 4. 客単価DI

前年の駆け込み反動による落ち込みとの対比に価格の上昇が加わり、大きく上昇



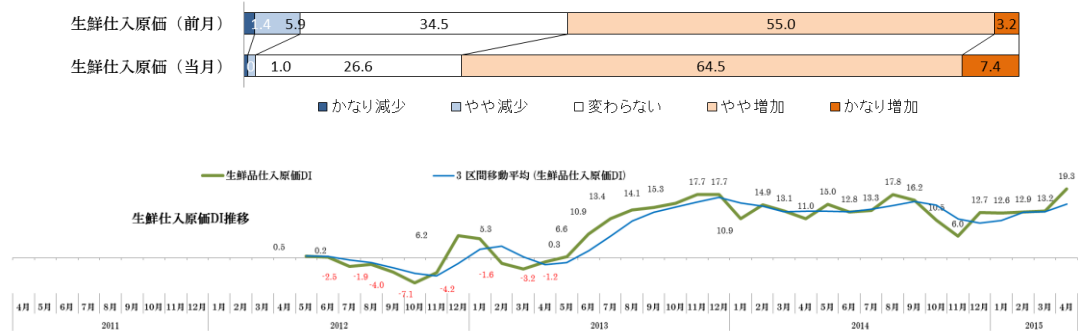
## 5. 来客数 DI

前年の駆け込み反動による落ち込みとの対比により大きく上昇



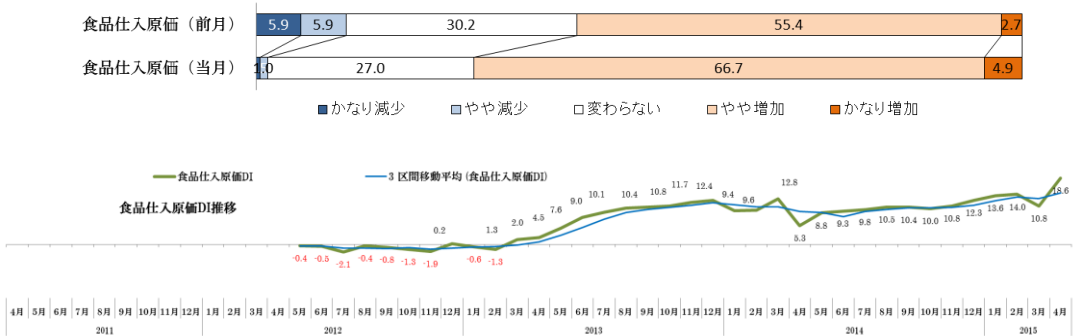
## 6. 生鮮仕入原価 DI

天候不順による青果相場を中心とした相場高により過去最高値を記録



## 7. 食品仕入原価 DI

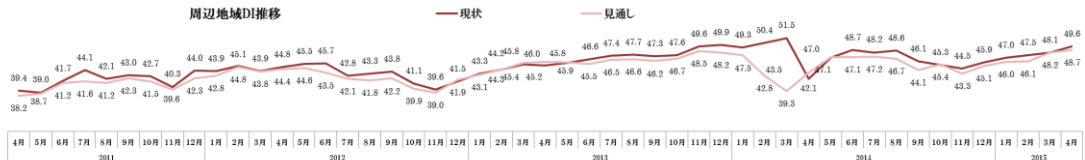
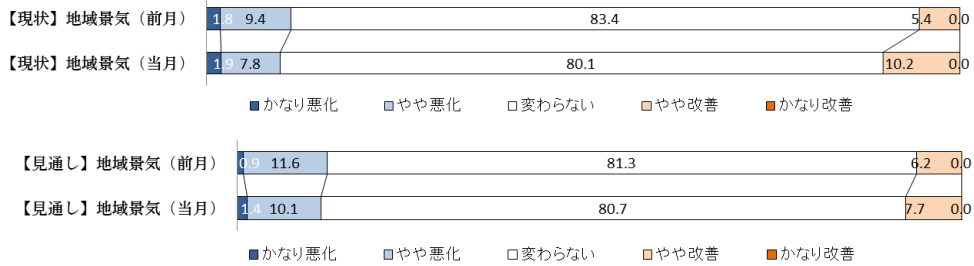
値上げ商品が相次ぎ、過去最高値を記録





#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

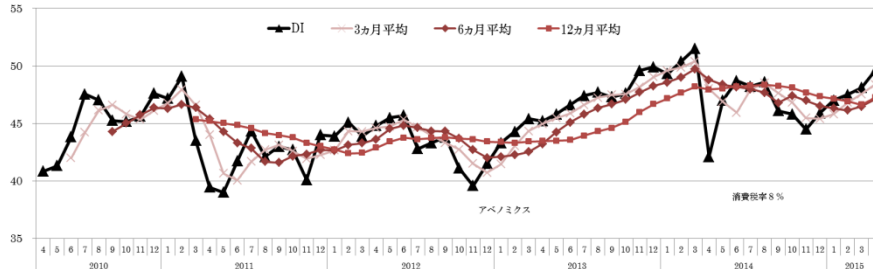
現状、見通し判断は共に5ヵ月連続で上昇し、堅調に推移



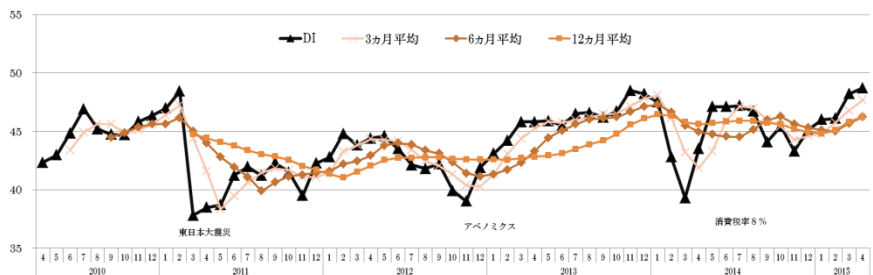
#### 長期傾向 (2010年4月～)

2012年11月以降上昇を一本調子に続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。その後、5月に持ち直すものの、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では再び下落となった。消費税率引き上げ後、3ヵ月周期でトレンドが変化し、方向感の見えにくい状況であったが、12月以降は現状、見通しともに5ヵ月連続の改善となり、2010年の調査開始以降で最高水準にまで上昇をみせており、堅調な回復を示す状況となっている。

#### 現状判断 (中長期傾向)



#### 見通し判断 (中長期傾向)



### Ⅲ. カテゴリー別動向

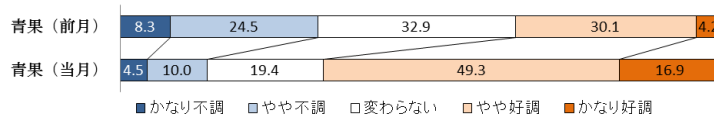
#### カテゴリー別動向 DI による好不調判断

かなり好調：20 以上・好調：10～20・やや好調：0～10

かなり不調：-20 以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

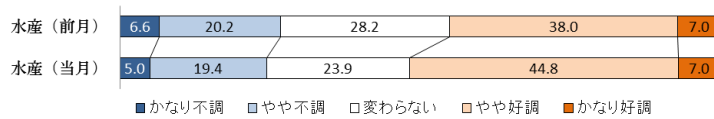
#### 1. 青果 DI：16.0（好調）

4 月に入り青果相場（特に大型野菜）が高騰した影響で、一品単価の上昇により好調となっている。一部では、仕入れや品質低下により苦戦している地域もあった。カット野菜を好調、玉ねぎを不調にあげるコメントが多かった。果物相場も輸入品を中心に高騰しているが、好不調の判断は分かれている。リンゴや柑橘類は好調のコメントが多くみられた。



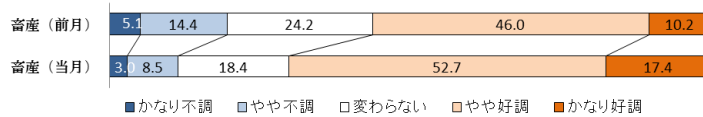
#### 2. 水産 DI：7.3（やや好調）

引き続き相場が高い環境のなか、売場の改装やレイアウト変更など、新商品開発などの成果で好調となったとするコメントが多くみられた一方で、マグロや刺身、鮮魚類が不調であるとのコメントもみられた。



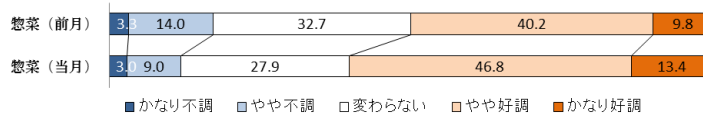
#### 3. 畜産 DI：18.3（好調）

牛肉、豚、鶏共に高い相場が続いているなかで販売量も堅調となっており、好調となっている。気温の上昇と共に焼肉関連需要の高まりを背景に牛肉や豚肉が好調であり、なかでも国産が好調となっている。ハムやベーコンなども好調にあげるコメントが多い。一方で今後の利益率の管理を課題にあげるコメントも散見された。



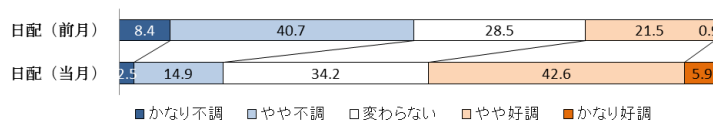
#### 4. 惣菜 DI：14.7（好調）

出来立て作り立ての惣菜の提供や、旬な食材を使った季節感を出した惣菜等が好評であり、客数が前年に比べて増加していることも追い風となった。揚物類は好調であるとのコメントが多い。一方で周辺店舗との競合の厳しさを指摘する声もみられた。



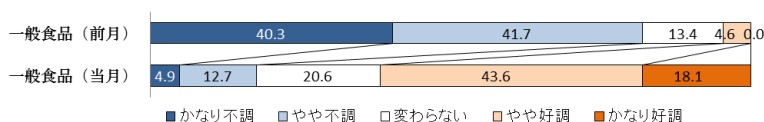
## 5. 日配DI：8.7（やや好調）

前年の買いだめの対象となった商品（日持ちする冷凍食品等）の落ち込みからの反発も加わり、やや好調となった。ヨーグルトを中心とした乳製品が好調とのコメントが多い。気温の上昇とともに冷食が好調であったが、月内で気温の変化が激しかったため、その影響を受けたとのコメントもみられた。卵を不調とするコメントが散見された。



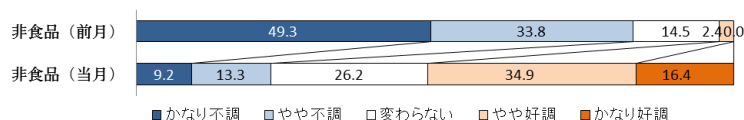
## 6. 一般食品：14.3（好調）

前年消費税率引き上げ前の買いだめによる落ち込みからの反発により好調となった。買いだめの対象となった調味料類やドレッシング類や酒類はかなり好調となっている。また、これまで相場安により不調だった米類が好調に転換しつつある。値上げによる単価アップも追い風になっている。



## 7. 非食品DI：9.0（やや好調）

前年消費税率引き上げ前の買いだめによる落ち込みからの反発によりやや好調となった。買いだめの対象となった商品を中心に好調であるが、ドラッグストアを中心とした競合により落ち込み分をカバーできなかったとのコメントも見られた。



## 2015年5月調査（4月実績）キーワードTOP3

1. 前年の落ち込みからの反動
2. 仕入れ値の上昇相次ぐ
3. 天候要因（気温の変化大）

## スーパーマーケット景気動向調査

- 4月実績速報版集計 226社
- 3月実績確報版集計 208社

## スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

[tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)